

目指せ! 東京五輪

頑張れ 龍星



第13号



新たなステージへ、更なる精進を誓う

感謝を胸に日々進化

レスリングで活躍する飯能市本町の坂田龍星(りゅうせい)選手(18)は昨年10月に長崎県で行われた国民体育大会のレスリング少年フリースタイル96キログラム級に出場し、高校最後の栄冠を掴んだ。「嬉しいよりも今まで支えてきてもらった人たちにいい報告ができてと思って安心した」。勝利の嬉しさよりもこみ上げてきたのは安堵の気持ちだった。優勝が決まった瞬間大きな体を震わせて大粒の涙を流した。「今まで自分がレスリングを続けてこれたのは家族、仲間、恩師の励ましがあったからこそ。今までもこれからも感謝を忘れずにもっと強くになりたい」と話す龍星はどこか穏やか。強さと優しさを持つ男だ。

坂田選手は飯能幼稚園、飯能第一小学校、西中学校出身。元飯能、飯能南高校レスリング部顧問の故・山中道雄さんの遺志を継ぐ「山中道場」でレスリングと出会った。

埼玉栄高校へ進学し、厳しくもライバルやレベルの高い恵まれた環境の中、確実な成長を遂げ全国的にも注目選手として名を挙げている。

■敗北を糧に
主将となった3年の春、新潟県で行われた全国選抜選手権では初優勝を果たし、名実ともに高校生日本一に。選抜、高校総体、国体の三冠に期待がかかった。

が、迎えた夏の総体県予選、花咲徳栄高校の選手に敗北を喫し、本戦出場を逃した。「苦手をスタイルの選手で、最後まで自分のペースに持ち込めなかった。期待が大きかった分坂田選手は苦しみが続いた。何をしたらいいかわからなくなると、調子が上がらなくなり、そのとき初めてレスリングが嫌になった」。

辛い日々を支えてくれたのは仲間、恩師、そして家族。多くの励ましと応援を受け、様々な相手に対応できるよう対戦のバリエーションの充実も図り、再び日本一を目指した。

迎えた国体決勝「ブレッ

身長175センチ、体重100キログラム。スピードと体力を武器とする。「自分が強いというのと思ったことがない。まだまだ上の選手が多くいる。越えなきゃいけない壁ばかりです」。

今春埼玉栄高校を卒業、日本大学へと進学し、新たなステージへと進む。「夢は五輪選手。まずは大学で日本一を目指したい」と感謝を胸に今日もリングへ向かう。

相手の動きを見極め、着実にポイントを加算。最後まで自分のスタイルを貫き攻め続け、完全勝利をおさめた。

「レスリングの楽しさや礼儀、大事なことを多く学んだ大切な場所」。坂田選手の原点といえるのは、平成12年に飯能レスリングクラブとして創設。飯能高校や飯能南高校の教諭として、レスリングを教えた人間形成に尽力した故・山中道雄さんの遺志を継ぎ、平成20年、名称を山中道場に変更。毎週木曜日、土曜日、日曜日に飯能市民体育館または人間市武蔵館で練習を行い、現在は5歳から中学生までの35人が所属し、元気いっぱい楽しく活動している。

山中道場のコーチで飯能レスリング協会の木藤達哉理事長は坂田選手について「昔から才能、素質は身長と同じく頭一つ分とびぬけていた。試合の勝敗を経験していき中で、成長して

いった。悔しい思いもあったと思うが、それをバネにしていく力のある前向きな選手」と話す。「一つひとつの勝敗にこだわってではなく、長く続けていける選手になってほしい。東京五輪出場はもちろん期待している。日本、世界でもレベルの厳しい階級。これからの努力は必要と教える子の活躍を期待した」。



国体優勝を大久保市長へ報告

飯能期待の 坂田龍星 昇星

大久保市長も応援 期待の声追い風に

坂田選手は飯能市本町にある居酒屋「若大将」の三男坊。練習がないときは店を手伝うこともあり、常連客を中心に活躍を喜ぶ声も多く寄せられている。期待を追い風に、それが強さの源だ。小さい頃から成長を見守ってきた観音寺の服部融亮住職は「強いだけでなく、人柄もとても良い。これからも応援している」とエールを送る。

また、自身もレスリング選手として活躍した大久保市長も坂田選手の勇姿に期待する1人。昨年10月に市役所で行われた長崎国体の優勝報告会には飯能レスリング協会の木藤達哉理事長と訪れ、結果を報告した。大久保市長は活躍を喜び「飯能市から国体での優勝者が出たことは非常に嬉しいこと。これからもさらなる活躍を期待している」と激励した。



スピードと体力を武器に坂田選手

坂田選手の原点 山中道場



大事なことをたくさん教わったという山中道場